

連結送水管耐圧性能

点検の実施結果

(社) 東京消防設備保守協会 保守業務部検査課

当協会の新規事業として、消防用設備等における点検基準（消防庁告示第三号）の改正に伴う、連結送水管（十年を経過）の点検業務を開始して一年を経過しました。そこで、点検結果の概要をまとめましたので報告いたします。

一 期 間 平成十四年十二月一日～平成十五年十一月三十日

二 点検結果（詳細は別表のとおり）

点検総数 二七六 対象

正 常 一八〇 対象（六五、二％）

不 良 六二 対象（二二、五％）

点検不能 三四 対象（一二、三％）

(1) 不良（加圧送水するも減圧が認められるもの）原因

○ 配管からの漏水が認められたもの

○ 送水口逆止機構不良

○ 送水口仕切り弁不良

○ 埋設配管漏水と思われるもの（ゲージ反応なし）

(2) 点検不能（事前点検で加圧不能又は送水するも加圧しないもの）原因

○ 仕切り弁、逆止弁不良固着

○ 送水口逆止機構不良固着

○ 屋上補助水槽逆止弁不動作

連結送水管耐圧性能点検実施結果（湿式・乾式）

自 H14・12・01
至 H15・11・30

(別表)

経過年	方式	正常	不 良				不 能				合計	
			配管漏水	逆水口逆止機構	送水口仕切り弁	不 明	計	逆止・仕切り固着	逆止機構固着	屋上水槽仕切り固着		計
10～15	湿式	18		1	1		2	1		1	2	22
	乾式	20	3				3					23
16～20	湿式	8	3	1			4			1	1	13
	乾式	7	1				1					8
21～25	湿式	17	3	4	2		9	2	1	6	9	35
	乾式	5				1	1					6
26～30	湿式	36	8	6	3		17	1	1	11	13	66
	乾式	5	3		1		4					9
31～35	湿式	4	1	1	1		3		2		2	9
	乾式	2	2				2					4
36～40	湿式	4	2		1		3		1		1	8
	乾式	2	1				1					3
不明	湿式	40	3		3	1	7		5	1	6	53
	乾式	12	5				5					17
計	湿式	127	20	13	11	1	45	4	10	20	34	206
	乾式	53	15		1	1	17					70

不良又は点検不能対象が予想以上に多く見られ、特に配管不良と屋上補助水槽逆止弁の不良が顕著であった。

配管不良については、フランジ部の均等締め付けがされていないもの又は地中埋設部の電触防止装置が不十分と思われるものが散見された。

屋上水槽仕切り弁については、長年作動させてないことから固着して締め切りが出来ないものが多く見られた。

いずれにしろ、長期間通水、耐圧点検を実施する機会がないことから、機能確認できない状態で放置されたため、高い比率で不良・不能対象が浮きぼりになった。